

高木仁三郎市民科学基金 助成研究/研修 完了報告書

提出日：2008年 5月 13日

1. 氏名・グループ名及び研究テーマ

氏名(グループ名)	環瀬戸内海会議
連絡先・所属など	700-973 岡山県岡山市下中野 3 1 8 - 1 1 4 松本方 ・Fax 086-243-2927 電子メール kanseto@mx36.tiki.ne.jp nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp
調査研究・研修のテーマ	瀬戸内海沿岸潮間帯の海岸生物調査と、それによる地域再生をめざして

2. 調査研究・研修結果の概要

瀬戸内海において、生態系の視点から、定点での継続的な調査は公的にはない、かつ、大阪湾が典型的だが、コンクリート護岸によって海と人の暮らしが遮断されてしまった。海と接する機会が失われ、「足元の海」を見つめる機会さえ失われつつある。これは地域に暮らす人々の意識からも遠のいているように見える。

2007年10月、5年間の調査の積み重ねを「2002～06年 瀬戸内海沿岸の海岸生物調査報告書」としてまとめ、発刊した。生物調査の地道な活動の積み重ねが、専門家からも学術的にも高い評価の声を聞くようになってきている。瀬戸内海研究会議会長・松田治先生（広島大学名誉教授）からも「02～06年 瀬戸内海沿岸の海岸生物調査報告書」をお送り頂き大変有難うございました。漁業統計以外のこのような生物に関する調査報告は非常に貴重なものです。大いに参考させて頂きたく思っております」とお褒めのお便りを頂戴した。

地域再生の観点からは、食品の安全に関心が高い生協が私どもの提案で継続的な生物調査に取り組むようになってきた。平成の大合併に加え小中学校の統廃合問題を抱え、過疎化・高齢化のなか地域は益々深刻になっている。そんななか、小学校のPTAとその子どもたちの有志、地域の環境子どもクラブなどにも継続的な活動が芽生えてきた。

2007年の海岸生物調査は、ほぼ順調に調査が実施されてきた。生協では組合の年中行事に組み込まれ、組合員のイベントとして毎年実施されるなど「定点での継続的調査」がすっかり定着している。地域の子どものクラブさらには小学校のPTAの活動の一部に取り上げられたことは、今後に向けて極めて有意義であり、何よりも子どもたちの参加が、徐々にではあるが増えていることが喜ばしい。子どもたちの参加を促す生物調査が各地で取り组まれることを願ってやまない。

環瀬戸の海岸生物調査は2002年から開始し、今年で7年目を迎えようとしている。2007年は現在把握しているもので77箇所、参加人数526人となった。この4年間の生物調査には毎年、500～600人が参加者している。

地域に暮らしながら市民の目線で「足元の海に目を向けること」が大切と思っている。地道な取り組みだが、地域を見直すきっかけにもなる。何より、参加する子どもたちの笑顔がまぶしい。

3. 調査研究・研修の経過

・ 海岸生物調査報告会・生物調査の実施

5月12日、当会広報誌「瀬戸内トラストニュース」39号発刊と共に、海岸生物調査協力をお願いを呼びかける

5月12日	大阪府	堺市	海岸生物調査報告会	エスコープ大阪主催			
19日	兵庫県	生物調査	都市生活生協	主催	3箇所		
			明石市	大蔵海岸		参加70名	
			西宮市	御前浜		参加11名	
			西宮市	甲子園浜		参加9名	
19日	広島県	廿日市	阿品	おあがり場		参加2名	
6月2日	大阪府	生物調査	エスコープ大阪	主催	3箇所		
			貝塚市	二色浜	近木川河口	参加85名	
			貝塚市	二色浜	中央部砂浜	参加8名	
			貝塚市	二色浜	南側石積み	参加8名	
6月3日	香川県	豊島	アースディイベントとして生物調査		3箇所	参加25名	
			産廃不法投棄現場北海岸				
6月28日	兵庫県	龍野市	御津町	新舞子	1箇所	参加20名	
6月30日	広島県	廿日市	宮島町	聖崎		参加2名	
		廿日市	宮島町	包ヶ浦		参加2名	
7月8日	香川県	小豆郡土庄町	大部	田井の浜		参加12名	
			目島海岸			参加13名	
(7月14, 15日)	岡山県備前市、香川県観音寺市					台風のため調査中止	
29日	愛媛県	松山市	中島町	城	1箇所		
			愛媛有機農産生協	主催		参加25名	
7月30日	福岡県	北九州市	小倉区	曾根新田		参加1名	
	福岡県	行橋市	簗島海岸			参加1名	
	香川県	観音寺市	報告会と生物調査		3箇所	参加13名	
			余木崎、有明浜、父母ヶ浜	岩礁帯			
15日	岡山県	瀬戸内市	長島	生物調査	3箇所	参加1名	
20日	愛媛県	今治市	吉海町	津倉	3箇所	参加6名	
25日	愛媛県	今治市	伯方町	生物調査	2箇所	参加3名	
			船折りの瀬戸、波越海岸				
26日	山口県	上関町	長島	生物調査	2箇所	参加18名	
			田ノ浦	南東	岩礁帯、田ノ浦	北西	岩礁帯
8月9日	兵庫県	神戸市	須磨浦		5箇所	参加5名	
26日	香川県	土庄町	豊島	北海岸	3箇所	参加1名	
30日	香川県	高松市	屋島		1箇所	参加2名	
9月8日	岡山県	瀬戸内市	牛窓町	生物調査	3箇所	参加4名	
			弁天島、海水浴場、むしろえ浜				
9日	香川県	直島町	生物調査		3箇所	参加2名	
			琴反地つつじ荘東、ベネッセ西、積浦海岸				
13日	愛媛県	八幡浜市	真穴大釜	ねずみ島	1箇所	参加2名	
9月16日	香川県	庵治町	竹居	観音岬	1箇所	参加2名	
9月17日	香川県	土庄町	豊島	甲生(ドンドロ浜)	1箇所	参加1名	
9月21日	香川県	土庄町	豊島		2箇所	参加1名	
			家浦(家浦港)、唐櫃(王子ヶ浜)				
22日	愛媛県	北宇和郡伊方町	小島の浜				

	愛媛県	今治市	弓削	生物調査	4箇所	参加	4名
			引野、苅田、日比、沢津海岸				
9月	22日	愛媛県	伊方町	瀬戸小島	1箇所	参加	18名
	23日	愛媛県	松山市	白石鼻	1箇所	参加	10名
	24日	愛媛県	今治市	桜井海岸	3箇所	参加	6名
			今治市	大西町 鴨池海岸	2箇所	参加	2名
			今治市	波方海岸	3箇所	参加	2名
	26日	愛媛県	北宇和郡伊方町	佐田岬灯台	2箇所	参加	25名
	29日	愛媛県	北宇和郡伊方町	三机須賀之浜～加周海岸	2箇所	参加	1名
10月	2日	愛媛県	八幡浜市	夢永海岸	1箇所	参加	2名
	7日	兵庫県	赤穂市	坂越 丸山海岸	1箇所	参加	1名
	7日	岡山県	備前市	鶴海 臍尾の鼻	1箇所	参加	1名
	7日	岡山県	瀬戸内市	尻海 錦海塩田排水口、鯨網先	2箇所	参加	1名
	7日	岡山県	備前市	鶴海 臍尾の鼻	1箇所	参加	1名
	8日	岡山県	倉敷市		2箇所	参加	8名
			塩生海岸	高梁川河口			

目下集計中のため、不完全なままの報告になることをご容赦いただきます。
調査地点と参加者数の推移は以下の表の通り

調査地点の推移

	和歌山	大阪	兵庫	岡山	広島	山口	福岡	大分	愛媛	香川	徳島	合計	参加人数
'02年	0	0	4	5	7	2	1	4	8	5	0	36	
'03年	2	2	9	11	33	5	3	2	25	22	2	116	399
'04年	0	1	9	14	10	4	5	1	20	21	0	85	336
'05年	0	1	11	12	20	12	3	3	22	19	0	103	561
'06年	0	2	13	10	20	3	3	0	24	19	0	94	579
'07年	0	3	6	11	13	2	2	0	23	17	0	77	526

- ・ 「2002～06年 瀬戸内海沿岸の海岸生物調査報告書」発刊

2007年10月1日「2002～06年 瀬戸内海沿岸の海岸生物調査報告書」800部を発刊し、これまで調査に協力頂いた市民・市民団体、研究者そして国会議員に配布した。さらに改訂版の発刊を考えている。

瀬戸内海生物調査が2007年10月24付け中国新聞第一面コラム「天風録」に取上げられる。

「2、概要」でも触れたが、瀬戸内海を研究する研究者からも高い評価を頂いている。

4. 調査研究・研修の成果

- ・ 参加者数500～600人で推移しつつ、生協や地域の小学校の年間行事として定着しつつある。
- ・ ひとつの節目として5年間の調査をまとめ、「2002～06年 瀬戸内海沿岸の海岸生物調査報告書」を発刊することができた。
- ・ 「生物調査報告書」への専門家・研究者から高い評価を得た。
- ・ 不法投棄された産廃から汚染水の浸出が漏水防止工事で止まった香川県豊島、鉄鋼スラグが持ち込まれた愛媛県今治市吉海町の塩田跡地周辺の海域など、環境の急激的な変化には、潮間帯の生物にも劇的な変化をもたらすことが改めてわかった。環境が好転すると、かなり速い速度で生物相が豊かになり、海域から姿を消していた生物が蘇ってくることもわかった。

- ・ 瀬戸内海は最近、「きれいになった」とよく言われる。確かに透明度は上昇したかに見える。しかし、全ての海域で透明度が上がるのが、必ずしも環境として良好なわけではない。河口や干潟では透明であっては生物相は極めて貧弱で、川がダムや河口堰で寸断されている海域では、山からの栄養塩の供給が乏しくマガキなどが成育しないこともわかってきた。加えて、満潮時に陸地に浸み込み干潮時に海に湧き出すという潮の干満に伴う陸地からの豊富な湧水がある、あるいは海岸線に豊かな植生を有する集水域がある海域ほど、魚介類も海藻(草)も種類も個体数も多く、生物相は豊かである。
- ・ 一方、過疎化・少子化・高齢化の中、地域コミュニティが失われつつあり、いわゆる「平成の大合併」がそれに拍車をかけている。とりわけ、地域の核となる施設であり、地域の年間行事の中心であった学校の統合は、問題であることもわかった。
- ・ これは、本来の成果とはいえないが、6年間、生物調査を続けることができたのは貴基金をはじめ種々の助成団体の生物調査へのご理解とご協力の賜物であるが、贈呈式で、各地の環境市民団体・NPO・市民グループと交流でき意見交換できたことは、想定外の収穫であった。

5. 対外的な発表実績

- ・ 2007.6.3 アースデイかがわin豊島2007(香川県土庄町豊島)
これまでの「生物調査」を発表すると共に、参加協力を要請し不法投棄現場北海岸で生物調査を実施し、参加者に地元での生物調査を呼びかけ。
- ・ 2007.6.30 錦海塩田跡地問題シンポジウム(岡山県瀬戸内市)
海岸生物調査の呼びかけチラシ配布
- ・ 2007.9.1 瀬戸内沿岸住民集会(主催:瀬戸内海の環境を守る連絡会 福山市)
海岸生物調査の呼びかけチラシ配布
- ・ 2007.10.29~30 瀬戸内法改正へ協力求め国会議員会館訪問
瀬戸内沿岸選出の約30人の衆参両院議員に面談、瀬戸内法改正へ協力要請するとともに内海の現状に理解を求め「海岸生物調査報告書」を手渡す
- ・ 2007.11.11 土と平和の祭典(主催:同実行委員会 東京都 芝公園)
海岸生物調査の呼びかけチラシ配布と瀬戸内法改正署名活動
- ・ 2007.11.19
「瀬戸内海環境シンポジウムin児島」(主催:国交省中国地方整備局 倉敷市児島)
海岸生物調査の呼びかけチラシ配布
- ・ 2007.11.23~25
「シンポジウム 瀬戸内の原風景・長島」(主催:長島の自然を守る会山口市・上関町)
海岸生物調査の報告と呼びかけチラシ配布
- ・ 2007.12.9 播磨灘を守る会第36回総会・学習会(兵庫県御津町)
海岸生物調査の報告と呼びかけチラシ配布
- ・ 2008.2.15~17
市民活動のための環境アセスメント講座(主催:(独)環境保全再生機構
地球環境基金 協力:あおぞら財団 門司の環境を考える会 北九州市門司区)
海岸生物調査の報告と呼びかけチラシ配布
- ・ 2008.3.22 瀬戸内シンポジウム(主催:日本科学者会議他 岡山市)
海岸生物調査の報告と呼びかけチラシ配布

6. 今後の展望

- ・ 市民の目で「足元の海」を見続けることの啓発をさらに進める必要性を感じる。いくらかのポイントに絞って調査をすべきとの意見もあるが、瀬戸内沿岸には多くの住民が暮らし、日々海に接している。しかし、海に接し海とともに暮らしてきた生活が失われている。かつ、地域社会のコミュニティが失われつつある。いつでもどこでも気軽に、素人でもできる海岸生物調査は、さらに調査地を広げていく必要があると考えている。それぞれの地域での年中行事となって、自立した活動に育っていくことを期待したい。
- ・ 瀬戸内海はいくつもの顔を持っている。干潟・砂浜・岩礁帯・河口など、種々の様相を持っている。海に触れ合う機会を提供・提案していきたい。
- ・ たった5～6年で何かがわかるとは思えない。瀬戸内海を知り尽くせたわけではない。さらに調査を継続するとともに、調査地の拡大を図りたい。
- ・ 「継続は力なり」、シンプルだが地道な調査の積み重ねがあって、国会議員の心を揺り動かせるのではないか。このままの瀬戸内海で良いと思っている市民はいない。大抵が「これ以上埋めたらあかん」という。調査参加者が実感したものを自分の言葉にしていく必要がある。
- ・ 高齢化し減り続ける漁業者。後継者も極めて少ない。かつ、瀬戸内海では1986年をピークに漁獲高が激減している。後継者不足の原因でもある。これまでの活動を通して、必ずしもこの漁業者との連携が構築できていない。連携を獲得していく必要を痛切に感じている。

高木基金へのご意見

貴基金の、環境市民運動への積極的な取り組み・支援に敬意を表します。高木先生の「市民科学」構築は、いわば科学を市民の手にとりもどすことであろうと思っています。高木先生のご遺志を受け継ぎ、活動を引き続き継続していきたいと思っています。今後もよろしくお願いいたします。

7. 完了報告 英文概要

Recipient Name	Pan Seto Inland Sea Congress
Belonging / Contact Address < 公表可能な問い合わせ先・ メールアドレスなど >	318-114 Shimonakano Okayama City 700-0973 Okayama Prefecture kanseto@mx36.tiki.ne.jp nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp ホームページ http://ww1.tiki.ne.jp/rkshizutani/
Theme of Research/Training	Biota investigation system on the Seto Inland Sea intertidal zones and local community revival through the investigation
Name of the Organization Providing Training < 研修の該当者のみ >	

< 以下の空欄に前記 2 . に対応する内容を英文で記載して下さい。 >